

信州の高山帯のいきものを守る

～絶滅のおそれのある高山遺存種の保護回復に関する調査研究～



長野県環境保全研究所 自然環境部

長野県の高山帯は、世界的な分布の南限であるライチョウをはじめ、高山植物の固有種も生育する貴重な生態系です。この高山帯のいきものの絶滅の危機からの回復を目指して研究しています。

なぜ研究が必要なの？

<現状と課題> 長野県の高山帯生態系は、ニホンジカによる高山植物採食の影響や気候変動の影響による変動の激化が懸念されています。

<目的> そうした危機にさらされ、信州の高山帯に生育・生息するいきものの中でも、特に絶滅のおそれの高い生物の保護回復に向けて、その取組に不可欠な生態情報の収集と緊急的な保全対策を図ります。

どうやって研究するの？

① バイオロギングとドローンを活用したライチョウ目線での利用環境の解明



② 八ヶ岳固有種ヤツガタケキンポウゲの緊急的な生息域内保全

- 自生地の地点数が減少し、残存する群落ではシカの採食を受けていました。
- シカ柵等による緊急的な生息域内保全を図り回復状況を調査します。



ヤツガタケキンポウゲ
(キンポウゲ科)



ヤツガタケキンポウゲの採食痕とシカ糞

③ 高山帯の環境変動のモニタリング（継続事業）

- 北アルプス高山帯へのシカ・イノシシの侵入状況を調査します
- 登山者投稿アプリ「ライポス」で広域のライチョウ分布情報を収集します



長野県「ライチョウ保護スクラムプロジェクト」



北アルプス爺ヶ岳の高山帯に侵入したニホンジカ